

第29回 保健福祉学会長賞 受賞者コメント



■発表のきっかけ

コホート検討会で備中県民局管内の結核についてまとめた際、高梁市地域の罹患率が高いことが分かりました。結核審査会の委員からも「なぜ多いのか」と問われ、所内の職員とも要因について意見交換を行いました。その過程でさらに調べてみたいと考え、発表に至りました。

■受賞後の変化／発表してよかったこと

今回はデータ分析の手法を用いました。日常の業務で「多い」「少ない」と感じることも、数字やグラフで示すことで根拠を持って説明でき、理論的に話すことにつながります。分析の過程で自分の理解や考えも整理でき、論文を書くときだけでなく、普段の業務にも役立つと実感しました。どの分野においても大切な視点だと改めて思いました。

- 氏 名：村木 麻有果
- 所 属：備北保健所保健課 保健対策班（発表時点）
- 職 種：保健師
- 発表演題：「高梁市地域は結核患者が多い？
～備北保健所管内の結核について分析～」

■保健・医療・福祉の職場へ働く仲間へ一言

今回の発表は、職場の皆さんの理解や協力があったからこそ形にできたと思っています。論文発表は難しそうに感じるかもしれませんが、取り組む中で地域や事業を整理することができ、新たな気づきも得られます。機会があれば、論文にまとめて発表してみるのもいいと思います。